

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京 3-128022
 印刷／社会福祉法人 共愛会



絵・中島 英子

聖夜

遠い神、近い神

(エペソの信徒への手紙 第二章十三節)

理事長 福島 勲

万葉集では神に祈るといふ表現は一つもない。全て神を祈るとあり、祈るの代わりに「乞む」(ノム)という言葉を用いた場合でも、神をのむとあって、神に乞むではない。

この「に」と「を」の違いは人間と神との関係が遠いか近いかによるであろう、と同志社大文学名誉教授の土橋寛博士は言われる。(日本語に探る古代信仰・中公新書)

五世紀から八世紀の人々が、この「に」と「を」の助詞をそのような意識の中で用いたのか。そして、いつ頃、なぜ神に祈ると言うようになったのか、詳しく知りたいものである。

神が遠い存在、近い存在と云うことは、もちろん空間的距離の問題ではない。

神学用語では遠い神とは神の超越性を、近い神は内在性を示すに用いられている。

質においてわれわれとは全く異なる神、われわれと関係を持

たないかのような神が、キリスト・イエスにあつてわれわれと関係を持ち、いと近くにおいてなるのである。

一方、神がいかに遠い存在であられるかのように思われる。

それを言い換えると、神のあわれみの豊かさと赦しの寛大さである。この不信仰と偽りの存在、悪に悪を重ね、御言葉に背き御旨をないがしろにし続けるものに対して、神は全く存在されなにかのように、罰することもなく忍んでおいでになる。まさに神は遠くにいますかのである。

世界に再びノアの洪水が起こっても当然と思われる昨今、それでも神は沈黙し、まどろんでいられるかのである。

けれども、もしわれわれがこのような意味で神が遠くにいますと意識するとき、神は実は近くにいますのである。

イエスの教えられた放蕩息子のたとえのように、父よ私は天

に対しても、あなたにむかって
も罪を犯しましたと告白する時、
まことに神は近くにいますので
ある。

無神論者で実存主義者である
カミュは、ある一人の神父と親
交があった。その信仰の堅さを
尊敬していたのである。

ある時その神父にニーチェは
地獄に行くことになりすね、
と言うと、神父はたちどころに
「ニーチェが天国に行かないと
したら、私は信仰しないだろう」
と言ったということである。

(関根秀雄・モンテーニュ遺選)
この神父の名が誰だか定か
でないが、古来、神の救いの寛大
さを説くものは、万人救済説や
親鸞の言った「善人なおもて往
生する、況や悪人をや」にも類
する、遠き神がまことに近い神
として表現される。

神の怒りや、まことの愛を知
らなかつたわれわれは、イエス
キリストの誕生によって、これ
を知らされ示された。
遠い神が近くの神として知ら
される。ただし、イエスは主な
り、との信仰においてであるこ
とは言うまでもない。

心を育てる

施設長 今関 公雄

開設後九回目のクリスマス
迎えます。この間の主なる神の
導きとみなさまのお支えを感謝
しつつ救い主イエス・キリスト
の御降誕をお祝い申し上げます。

開設当初、定員三十名の内、
幼稚園へ十二名が通っていた子
どもたちも、高校生四名、中学
生六名と逆転して高齢児が三分
の一を占めています。歳月の重
みを改めて感じていきます。併せ
て、思春期、青年期の課題の比
重が高まっています。

幼かった子どもたちも、身体
的成熟が目覚ましく、性的衝動
も増大し、自我の目覚めと言う
新たな自己意識が芽生えていま
す。「自分が分からなく」なっ
たり、「自分は一体これからど
うなっていくのか」とか、自我
意識が生まれ、自己の存在感の
根底も問われるようになります。
青年期の危機とはこれら同一性
喪失の危機と考えられ、改めて
自己を再定義し、再統合するこ

とによって自己の同一性の感覚
を揺るぎないものにするものが
課題となります。これが自我同
一性の確立であり、自分で肯定
できる本当の自分を見つけだし、
社会の脈絡の中での根をしっかりと
伸ばし、自己を揺るぎにな
いものにするのが求められま
す。

養護施設の子どもたちを象徴
する言葉として「親なく 家な
く 学歴なく」があります。親
のない子はいないにしても親子
関係が乏しく、暖かい家庭に遠
く、期待されることなく育った
ことで学力的にもややという厳
しい現実があります。これに勝
とうと努力をしていますが社会的
偏見・無理解などで、自分自身
を否定的・劣等視する傾向が加
速し、「どうせ自分なんて・・」
と諦めの感情が先行することに
なります。マイナスの自我形成
は社会的無理解・偏見が圧倒的
原因なのです。

一方、親が存在し、建物とし

ての家など、物的な条件がある
程度整えられている子どもにす
れば、施設は仮の住まいと思わ
れて腰が据わらないまましばし
これらはいずれも健康なパー
ソナリティではありませぬ。素
直な自己受容をする中で肯定的
な自我形成を図り、他者(状況)
受容がなされるのです。つまり、
劣悪な生育環境や自己の能力、
資質があるがままに受け入れ、
自分の出来ることから現実を
構築していく自発性が肝要です。
これは未来志向の心といえます。

以前から、これらの前提とし
て「愛情・所属・自己尊敬」の
共同生活の中で、その人格的関
わりを通じて、悪条件下でも、
子どもたちがどれだけ肯定的な
自我形成がなされるかが大きな
課題となってきています。
最近、「人見るも良し 人見
ざるも良し 我は咲くなり」
「小さきは 小さく咲くなり」
の言葉が胸に響きます。神は、
その人にふさわしい種子をお与
え下さったと信じます。自分ら
しい花を咲かせて神に感謝する
ものでありたいと切に思います。

エッセイ

まどかちゃんの植木

中島 睦雄 (県立高校教諭)

久しぶりにT君の所へ遊びに
行った。一階のアトリエの脇の
急な階段を上ると彼の居間であ
る。私は指定席のようになって
いる所に腰をおろした。「今日
はゆっくり出来るんかよ。」と
T君が言った。「ゆっくりはで
きるけど、今夜中には帰るよ。」
と、私に聞いた。部屋に入ったとき、
すぐ目についた小さな絵、正面
の壁に掛かったサムホール(葉
書の二倍ぐらい)のスケッチで
ある。黄色いバラの花を持った
女性が柔らかに素直な筆致で描
かれている。

「まどかが描いたんですよ」
彼の奥さんが言った。「母の日
のプレゼントに私を描いてくれ
たんですよ。」と嬉しそうであっ
た。

まどかちゃんは小さい時から、
素直なやさしい子だった。お母
さんを描いたこの絵にも、その
やさしさが形にも色調にも表れ

ていた。まどかちゃんも、もう
美術大学の一年生である。私と
家内にお茶を入りに来てくれた
まどかちゃんに私は「良い絵だ
ね、学校は楽しい？」などと話
しかけた。

「今ね、植木に水をやって来
たんです。又新しいのを一本植
えたいです」
私は何のことだか意味がわか
らなかつた。

T君のアトリエの向かい側
は、長い間草花の空き地があっ
た。殆ど手が入っていないで放
置されたこの空き地は、子ども
たちの絶好の遊び場となってい
た。もちろん子どもたちにはそ
の所有者などわからう筈はない。
だからいつでも自由に遊べる広
場であった。公園のようにきち
んと整備されていないだけ、子
どもたちにとっては遊びを創造
できるものとなっていた様であ
る。

まどかちゃんは、小学生の頃、
遠足で買って来た蜜柑の苗木を、
この空き地の道端に植えたので
ある。これが最初であった。そ
の後、遠足の時、自分でどこか
へ出かけた時などいろいろな植
木を買ったり、山で取ってきた
りして次々と植えていった。水
をやったり時には肥料をやって、
一人で植木を育ててきたのであ
る。それらがいつの間にか成長
し、実をつけるようになった。

ところが、この子どもたちの
自由広場に地主さんが現れて、
新しいアパートが何棟か建って
しまった。しかし、まだかなり
広い空間は残っていて、少し工
夫さえすれば充分遊ぶことは
出来た。そのうち残った空間が、
たちまちのうちに住宅展示場
になってしまった。これで遊び場
は完全になくなってしまったの
だが、まどかちゃんの植木は道
の端なので全く影響はなかった。

この植木には誰も関心を示さ
なかったのだが、気がついてみ
ると、いつの頃からか地主さん
もその植木を世話しているらし
い事がわかった。地主さんが木
鋏を持ってきて手入れしていた

のである。長い間放置したまま
だったから、気づかなかつたに
違いない何本かの植木を、自分
で育てる気になったようである。
いつだったか梅の木にたくさん
の毛虫が発生した。このままだ
と木が枯れてしまうと心配した
まどかちゃんが殺虫剤を用意し
たところ、地主さんの方が早く
気づいたと見えて、日曜日にやっ
てきて完璧に退治してしまった。
まどかちゃんは二階からそれを
見ていたのである。赤ら顔の五
十がらみの人の良さそうな小柄
なおじさんは、それはそれは手
際よく仕事をすすめていた。使
い古された木鋏にしても薬品の
噴霧器にしても、趣味の園芸愛
好家のものではない。それに作
業の時の手際などプロ並みだ。
この地主さんはたぶん近くの農
家の人なのであろう。

それにしても、地主さんはど
んな気持ちで世話をしているの
だろうか。考えるとおかしなこ
とだ。まどかちゃんは、私たちにこ
の話をして聞かせながら何度も
楽しそうに笑った。私もすっか
り嬉しくなっていた。

採光

天使になれなくて…(6)

名古屋大学付属病院 江崎 みちる

消灯後の病棟内は、まだ眠りに就けずにも当てもなく歩き回っている患者さんたちが、ヒタヒタと足音を響かせている。常夜灯の確認をしながら巡回する私の白衣のポケットで、マスターキーがチャリンチャリンと音を立てている。

今夜は妄想や幻聴に悩まされる静かな夜である。窓の向こうの鉄格子の間に、白々とした半月が浮いていた。

秋の人事異動で、希望していた精神科への配置替えが叶い、就職して五年目にして初めて、私はこの重い扉の中の世界に足を踏み入れたのだった。

「マスターキーだけは、何があっても手離さないように。」
初日の朝、婦長から手渡されたマスターキーはチェーンで白衣のベルトにとりつけられ患者さんの目に触れにくいようポケットにしまい込まれている。病棟内の倉庫や隔離保護室はもちろ

を手に、娘が会いに来たのだった。
娘とNさんの面会は、いつも病棟の外の面会室で三十分という制限付きで行われていた。それが双方にとってもっともパランスの取れる距離なのだという。それでも娘の面会のあった夜は、たいいていNさんは不穏状態となり、不安と興奮に悩まされるのだった。

「Nさん、眠れない？」
Nさんと少し距離を取ってソファに腰を下ろし、私が声を掛けた。「うん…。」いつも通り無表情で力のない返事である。私は少し迷いながらも言ってみた。「娘さん、大きくなったね。一人で来れるんだね。」

その時ふっと、彼女の口元がゆるむのを見た。私が初めて目にしたNさんの笑みであった。「娘さんと会ったの、嬉しい？それとも疲れちゃう？」
「…。」嬉しいけど、疲れるあまりに素直な彼女の横顔に私は少し戸惑っていた。しばらくの沈黙の後、彼女が言った。「子どもって、可愛いけど可愛

くない。会いたいけど、会いたくない。」

その言葉に、私は彼女の十年間の愛憎のすべてを見た思いがして、胸が詰まるほどの切なさを覚えたのだった。
「子どもって、そういうものかもね。」

やっとの思いでそう返すと、彼女はもう一度口元をゆるませたのだった。月明かりにうつすらと照らされた彼女の横顔は、どうしようもなく切ないほど、母親の横顔だった。

その時私もポケットの鍵が冷たい音を立てた。彼女はいつ、この重い扉の外へ出て行くことが出来るのだろうか。それまでこの母娘の間を決定的に隔てている重い扉を私は何度この鍵で開け閉めするのだろうか。私は静かに立ち上がり、詰め所までの長廊下を遠く遠く感じながら歩いてゆくのがあった。



学者もどきのつばやき(6)

『今、大学で思うこと』

山形大学医学部教授 仙道 富士郎

大学の話などとしても、一般人たちにはあまり関係のない話で、全くの絵空事のように聞こえるに違いない。いや、大学での出来事は事実絵空事に似ている。

ところが、近頃世間の冷たい風が大学にも吹き込んできて、あまり絵空事とうそぶいてもいられなくなってきた。そして、そうした世辞にさらされると、

普段は隠されている大学の住人の嫌らしさが目につき(もともと、私も大学の住人であり、自己嫌悪も含んでいるが)、いたたまれなくなる。「大病院の借金(赤字)を返済しないと、来年〇〇大学の概算要求(大学の大型機器の予算請求など)はゼロシーリングだ」といった、やくざまがいの、それも出所のはつきりしない恫喝に、それは大変とばかりに物事の筋を曲げてまで、従おうとする様は、筆者たちが大学に入学した頃から

考える想像できない。そもそも、大学というところは普段あまり世の中に役立つことをしているとは思えないが、逆風に向かってても「それは違う」と警鐘を鳴らすことが出来る場所に置かれ、それこそが大学の存在意義の一つではなかったのか。
しかし、大学だけが一人歩きして妙な方向に行ってしまったとも思えず、物質的にはどんなに豊かになってきたが、人の心は次第に乾ききってしまったのであるのではないだろうか。
自分自身のことを考えてみる。かなり強引に医師への道を家族から強制された私ではあったが、六〇年安保、七〇年大学闘争の中でもみくちやにされながらも、あるいはその中でもがきながらも、自分が大学の中でなければならぬこと、あるいはやっていきたいことに関する規範は持っていたように思う。それが次第に自分の中から消

え、いやそれは卑怯な言い方で、意識はしなかったかも知れないが、自分の中から消し、自然科学論文作製の競争の中に私は埋没していったように思う。すべての価値がいかに有名な学術雑誌にいかにも多くの学術論文を掲載するかに収斂し、他のことはそれに従属する関係になっていったように思う。

七〇年代は大学が荒れたとよく言われるが、あの頃ほど、多くの大学の住人たちが、研究とは何であり、何のためにするかということを真摯に考えた時はなかったのではないか。

私の中で、そして私と同様に多くの大学の住人の中で、こうした問いかけが次第に風化し、まず最初に研究ありき、というように変化していった。

自分の責任を世の中に転嫁する気はないが、それはあまり物事を深刻に考えずに、事柄の表相を追っていく世相の変化に一致していたように思う。

TVのお笑い番組に笑い転げ、少しまじめな話をするとダサイと言う言葉で笑い飛ばしてしまいう多くの青年たちへそれは受け

継がれているように見える。

このようなことはつい最近まで、私は考えたこともなかった。最近大学の教官の人事にあまり深く関わり、そして深い傷を受けた。そのこともあって多くの大学の住人をあまり信用できなくなってしまうところ。私は今少しさわやかな気分なのである。

このことを契機にして、私はこれまでの大学での自分の生き方を省みる機会を得た。その結果この拙稿に記したようなことを少しづつ考えるようになった。今、少なくとも言えることは、大学では個々人が独立した人格であり、自由な発想に基づいた討論こそがその基盤になるべきであり、その自由度を自ら制限していくようなことがあれば、それは大学としての死を意味するということである。

大学の冬の時代と言われ、逆風の吹きすさぶ中で、果たして何をしていったらいいのか、はなはだ心許ない。

少なくとも、「最初に研究ありき」の生き方には戻りたくないと思っているこの頃である。

ほくらのクリスマス

毎年やってくるクリスマス
街はきれいに装い
一体何を祝うのだろう
毎年のクリスマスは夜はパーティーだ
何のためのパーティーだろう
ほくは教会に行っている
この家の人はみな教会へ行く
クリスマス
それはイエスの生まれたという日
イエス・
それは臭い馬小屋の生まれ

私は、クリスマスが早く来てほしいなあと思います。
イエスさまがみんなをきちんと見ていて下さいます。かんしゃします。
イエスさまは馬ごやの中どう思いましたか？わかったことが一つあります。それは天使の光です。羊かいは「おやなんだろう」とびびくりしました。あの光はイエスさまの生まれた印です。イエスさま、生まれてよかったなあと思います。でも目では見えません。何で見るのかな。それはおいのりです。私もおいのりしてイエスさまのを見ています。

☆ 四年 多歌音

高一 陸男

クリスマスはプレゼントをもらえるのがとってもうれしいです。きよ年のクリスマスの前に照子さんと買い物に行った時、私が「あれほしいなあ」っていったのが、サンタさんのふくらに入っていました。



クリスマスはプレゼントをもらえるのがとってもうれしいです。きよ年のクリスマスの前に照子さんと買い物に行った時、私が「あれほしいなあ」っていったのが、サンタさんのふくらに入っていました。

小三 珠弥

私は、クリスマスが早く来てほしいなあと思います。
イエスさまがみんなをきちんと見ていて下さいます。かんしゃします。
イエスさまは馬ごやの中どう思いましたか？わかったことが一つあります。それは天使の光です。羊かいは「おやなんだろう」とびびくりしました。あの光はイエスさまの生まれた印です。イエスさま、生まれてよかったなあと思います。でも目では見えません。何で見るのかな。それはおいのりです。私もおいのりしてイエスさまのを見ています。

☆ 小一 ふく子

年長組 うたみ

クリスマスおめでとう

わたしのクリスマス

クリスマスの日、私はサンタさんが来るのを楽しみにしています。
私はサンタのおじさんが大好きです。それは誰にでもステキなプレゼントを持ってきてくれるからです。
どうしてみんなが待っているものがサンタさんに分かるのだろうか。

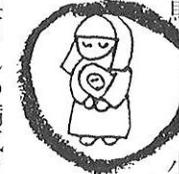
イエスさま、あなたがお生まれなされたことを心からお祝いします。
私は、光の子どもの家に来て人をあいつることなど多くのことを学びました。みんなでさんび歌を歌いせい書を讀むのも好きです。
どうか私のそばにいてはげまして下さい。あくまからにげられる子どもに育ちたいです。人の話をすなおに聞けなかつたり、自分かつてなので、そこをあくまにやられるのだと思います。
イエスさま、私のお母さんやお父さんは本当にいますか。ずっとずっと会いたいと思ってきました。七夕のたんだくにも書いたけど会えませんでした。きっと私がい子になったら会わせてくれますよね、イエスさま。

☆ 四年 亜季

小五 溪子

お祝いなんか出来るのだろうか事情も知らない人たちにそれでもほくはクリスマスをお祝いしようと思ってきました。
きれいに出来ないほくの心に馬小屋さえも輝かせた
イエスさまを受け入れたいから

クリスマスを楽しみにしています。理由は、みんなが食事をしたり遊んだりするからです。
イエスさまがこの世にお生まれになったのは、苦しい人、貧しい人のために死にました。
神様は、馬小屋でイエスさまが生まれた時、どう思ったでしょうか。
神様、お母さんの病気を早く治して下さい。そして、お父さんやお母さんと暮らせるようにして下さい。



クリスマスはプレゼントをもらえるのがとってもうれしいです。きよ年のクリスマスの前に照子さんと買い物に行った時、私が「あれほしいなあ」っていったのが、サンタさんのふくらに入っていました。

☆ 小二 けい二

小六 潔

私は、クリスマスが早く来てほしいなあと思います。
イエスさまがみんなをきちんと見ていて下さいます。かんしゃします。
イエスさまは馬ごやの中どう思いましたか？わかったことが一つあります。それは天使の光です。羊かいは「おやなんだろう」とびびくりしました。あの光はイエスさまの生まれた印です。イエスさま、生まれてよかったなあと思います。でも目では見えません。何で見るのかな。それはおいのりです。私もおいのりしてイエスさまのを見ています。

私はクリスマスが大スキです。ページェントをするからです。天使やせい歌たいやヨセフやマリヤやひつじかいをします。
サンタさんのプレゼントもうれしいです。プレゼントは、パズルや絵本やおかしや半てんなどです。ふくらにいつばいつめてサンタさんが持ってきてくれます。
クッキーはほしのかたちやまるやいろいろな形で楽しいです。
だから私はクリスマスが大スキです。

☆ 中三 逸郎

小三 ゆう子

かみさまありがとう

クリスマスって何？

小六 紅子

十二月になる前からデパートなどに行くと「クリスマスセール」という字が書いてあったり、ツリーがきれいに飾られていたり、ジングルベルやクリスマスの音楽が鳴ったりしていました。でも、みんなクリスマスってどんな日で、何だか分かっていないかな？って考えてしまうことがあります。

私はクリスマスというと、光の子どもの家をするページェントを思います。たとえば、今年はだれがどんな役をするのかななどと考えて、どきどきしたりうれしくなったりします。

たとえば、ごく普通のサラリーマンはクリスマスをどんな日だと思っているのでしょうか。中にはクリスマスをただ何となくケーキを買ったり、ツリーを飾ったりしているのではないのでしょうか。

中には、宗教が違うと言って、お祝いなどをしない人もいます。だけど、宗教にこだわったりしない方がよいと思います。何と言っても、十二月二十五日はイエスさまがお生まれになった日なんですから。

だから、私は光の子どもの家についてよかったですと思うのです。

私がこの家で迎えるクリスマスは九回目です。今年も一生懸命ページェントをやって、うれしいクリスマスにしたいと思っています。

佐藤家

庭の真ん中の大樫の無数の葉が吹く風を彩って流れ、アドヴェントの季節を迎えました。

身も心も凍えるような季節だったと聞きます。そして全くの暗闇だったとも。そんな中でイエス様の誕生を知った人々の心はどんなものだったでしょう。もつと言えば全くの暗闇とはどんなものなのでしょう。幸せ過ぎる程の生活をしてきた私には想像もつきません。去年のクリスマスに「プレゼントはいらないから、お父さんが来るようにして下さい」と祈った匠の父が亡くなりました。日常的に人前で泣いたりすることはありませんでしたが、親しい友には「独りで居られないから一緒にいてほしい」と頼んでいたという事をしばらくして耳にしました。私たちに向かって語られる言葉が、彼らの全てではないのだと改めて思いました。

ある日、ささいなことでトラブルを起こし、興奮した彼の妹は、泣きながら言いました。「だって、まり子さんのお父さんはまだ生きていますよ。私はまだ二回しか会ってないのに・・・」

親との死別はおろか、別離をまず、経験していない私は、決定的な部分で彼らと共感できないのかも知れません。そんな私は、彼らにとつて本当に頼りない存在だと思えます。伝えられることなど何もないのかも知れません。実際、私たちが何をしても、又しなくても、彼らは社会に出、自分なりの人生を歩んでいくのです。なのに何故、私は尚もここに居続けようとするのでしょうか。自分でも分からなくなることも多くなりました。

けれど、一度関わってしまった彼らには、よりよい人生を歩んでほしいと願ってしまうのです。

「頑張れない」という彼女に「頑張らなくてもいいよ」と言いつつ、彼らなりの光を見つけることが出来るよう心から祈り、祈ることしかできないクリスマスになりました。 岩崎 まり子

原田家日記

誕生会

十月十一日 悟、十七歳の誕生日。失敗の経験談だけは、自信を持って語れる大人たちから、厳しく、暖かい、たくさん励みの言葉。初めて同席した父から「ここを出てからも、胸を張って、堂々と顔を出せる生活をして欲しい」と、素晴らしいメッセージ。本当にそうだ。そう思いつつ、困ったり失敗しても、そんなときこそ、戻ってこれる場所がここだったらい、という思いに立ち戻る。今、というこの時の大切さ。願っていることと、起こっていることとの落差。ああでもない、こうでもない、私たちの思いも堂々めぐりをし、彼の前で空回りしがちだ。誰のものでもなく「彼の人生」であると、今更のように思うのは大人に近づいてきた彼を感じるからだだろう。

十月十二日 多歌音、十歳の誕生日。「あした起きたら『おめでとう』ってみんな言ってくれるかな」と期待と不安とうれしさの中間で眠りについた昨夜。プレゼントの前に、まず、心が欲しい多歌音に、祝うことの意味を教えられる。仲間からの「おめでとう」笑顔で受ける。頂いたカードのお礼の手紙に、「本当はお父さんに来て欲しいと思いました」と添えられていた。を。

十月三十日 晃子、十六歳の誕生日。朝食作りを担ってくれる助手毎年、この日のメニューとして、リクエストされるチョコレートミス。である。不思議に思っていると、兄が一言、「児童相談所で初めて食べたおやつがチョコレートミスだった。」あれから七年。社会に巣立った後、この家のどんな味、どんな思い出を持つことが出来るだろうか。

十一月八日 九月二十七日の潔の誕生日に植えたクロッカスが芽を出した。見えないところで深く深く根を下ろし、根を張り花を咲かせる。ひとり一人が自分らしい花をつけられる日にそなえて、ひとつづつ年を重ねていく。 竹花 信恵

子どもたちの季節

仙道家

クリスマスおめでとうございます。

与えられたイエスさまを感謝し、主をほめたたえます。この家で生活している子どもたちが、生まれてきてよかったと感謝できるようにするために、私たちのしなげがならないことは沢山あり、そのひとつは重く大きくて私たちには担いきれないものばかりです。ですから、神さま、私には全てのものの根元であり、全てをご存じの神さまに祈ることしかできません。

せめて、今、寝起きを共にしている二人について祈ります。

今年高校生になった睦男は、将来エンジニアになるために大学をめざして普通科を選びました。部活の弓道は一年生から選手として抜擢され、顧問の先生からは期待の星と言われています。そんな彼は今、初めの目標を少し見失いかけています。やさしい心の持ち主で、正義への思いを一番多く持っている子どもです。絶望的な状況から這いあがってくるほどの、様々な意味での力はあるのですが、自信がないのです。どうか彼に必要な勇氣と自信を獲得できますように。そして、不明だった所在がようやくつかめ、表現し始めた父との出会いへの思いが実現し、それを祝福に満たして下さい。そのことのために私たちを浄めてお用い下さいますように。

中学一年の嬉は、陸上部に入ってたくさん活躍しました。地区の大会はいつも好成绩で県大会まで進みます。数年後のインターハイ出場をめざしてがんばっています。しかし、自分の生い立ちにある不透明なものに気づき始め、時折暗い表情や憶病な内心を空威張りでカバーする、ドロップアウトする子どもたちと同じ様な振る舞いや言動が多くなってきました。神さま、そんな嬉に将来への大きな夢をお与え下さい。過ぎてきたこれまでにとらわれずに、誰にでも開かれていく未来をこそ信じられる大きな夢を！

全てをご支配なさる主の御名によって。アーメン。 穴水 祐介

現場から

季節を彩る

竹下 由香

今年も残り少なくなり、寒さの厳しい季節が始まりました。十月下旬のある日「栖賀兄妹の父が重篤な病気で入院している。」と電話があり、休暇の担当の岩崎保母に連絡し、二日後の祭日に子どもたちと見舞いに行くことにしました。翌日、危篤だという電話で、とり急ぎ栖賀兄妹を連れて平塚の病院に駆けつけましたが、一時間前に彼らの父は亡くなっていました。二年前に兄の匠が受験のプレッシャーを避けて父母と住んだ平塚を訪ね、思いがけず約七年振りに父と再会して関係が再開され、年に一・二度来訪されるようになった矢先のこと、兄妹の悲しみと落胆は言いようもありませんでした。幼児で入所し親のことは殆ど知らずに育ち、父にも回数しか会えず親子らしい会話さえ殆どしたことの無い妹の加津子は、父の死に顔を見ると、長い間涙が止まりませんでした。

その夜、病院の近くに宿をと、布団をびったりくつつけて、夜半に何度も私の手を握って来る加津子と二人で寝ました。翌朝目覚めると加津子は起きていて「昨夜は、救急車が三回も通るとも恐かった。殆ど眠れなかった。」と言いました。殆ど関わりがなかったが故に父の死は特別な衝撃であり悲しみであったのでしょうか。目頃から周りのものへの思いやりを見せる加津子だけにそれもひとしおだったに違いありません。父にはお見せ出来なかったが、みんなで祈りながら折った千羽鶴を、最後は加津子が頑張って仕上げ、お棺に眠る父に持たせるように供えていました。それから数日が経つと、いつもと変わらない生活に戻り、落ちついた様子になりました。殆どの子どもががついていけない学校の学習の補いをして、夜の一時間ほどの学習会に、父の死とささやかすぎるほどの弔

いなどで、加津子は暫く参加しないでしたが、生活が落ち着き普段と変わらないようになって、一向に戻る気配を見せない日が続きました。それでも、中間試験が迫っていたこともあり、そろそろ学習会に出てみるように促しました。すると、彼女は天をつくように怒り、狂ったような興奮状態になり、辺り構わず大声でこれまで見たことも聞いたこともない、見るにも聞くにも耐えない罵声を浴びせかかり、それはいつ止むとも知れないほど続きました。その衝撃と驚き、動揺は私自身をも混乱に陥れました。ずっと関係が悪いときのことならば了解もでき、後始末もイメージできたでしょうが、一体どうしたのかと戸惑うばかりでした。何故なのか、これからのことなど気にかかりましたが、小止みになるのを待って、やっとのことで部屋をでました。一緒に住めず、生活の支えにもなれず、いや、生活の障害でもあり、避けなければならぬ影響力であることの多かつた父でしたが、早すぎた晩年は

養護メモ 46

はたらくその七

菅原 哲男

人間が育つという事は順逆の差異があったとしても、多くの偶然の集積の上になり立つのではないかと、と先号書いた。ある方から「計画を持たないで人間に関わることの蒙昧」に電話で、お叱りとご教授いただいた。貧しい文をお読みいただきこのようにお叱り下さるご親切に心が熱く潤った。心底からの謝意を申し上げる。そこどころである。こんなことがある。ある家のガス給湯器が壊れてしまい、石油給湯器に変えた。この家に高校一年と中学一年の男子から、幼児までの十名が保母三人と男子職員一名と暮らしている。この家の年長としての尊敬や位置をただ年が上で腕力が強いだけで付与され易い傾向があった。この四月、大型石油タンク貯蔵庫から約五〇mほどにある戸外タンクに石油を運ぶ役割を担うことで感謝され、位置と尊敬を獲得できるようにと計画した。

この役割を、気がついた時に気がついた者がするといふかなり緩やかな約束で、しかし、最も難しい条件で始めた。運び忘れて戸外タンクが空になりお湯が出ないと騒いだり、力関係で一方に負担が偏るなどあったが、何とかやっていった。十一月下旬の寒い夜、小さい子二・三人と保母の入浴時にタンクが空になり、幼女が冷たいシャワーを浴びて泣いた。翌日の夕食時に保母がこれをお話して「ちゃんと入れておいてね！」と注文をした。「俺は何回も入れたよ。」と高一。「でも昨夜は・・・」と保母。「雨降りの時だって四・五回も入れたんだよ。」と高一。「だったら晴れているときに入れればいいじゃない」と保母。「そんな風呂を使うヤツが入ればいいんだよ！」これは中一。「〇ちゃんに謝ってよ！」と保母は幼児への謝罪を要求。風呂を使うみんながやればい

日誌抄

八月一日
九月末日まで

八月二日 この日より東大宮教会夏期学校を赤城リーパーサイドで三日間。二八名参加。
○町内川島商店よりピーチサドルなどを。ゼンプランテーションより三つ葉を沢山。
五日 栗橋町割烹萬屋よりうなぎを。みんなで。ありがとう！
○町内戸笈伸子氏より衣類を。
八日 この日から三・四年生が、五・六年生と同じ(株)フリックよりご提供の長野県小海町の山荘をベースキャンプに、八ヶ岳の横岳への登頂と陶芸家池端寛氏ご指導の陶芸教室、谷本画伯のアトリエでの作品鑑賞会などの夏休み行事第二弾を二泊三日で。
十二日 お盆帰省が出来なかった子どもたち十二名が、六回目になる湯河原の府川氏宅と二年目の館山市の都立船形学園に二泊三日の海水浴へ。お受け入れの上おもてなし下さった方々へ心から感謝。
十九日 栗橋駅前タカラブネよりケーキを沢山。感謝。

二四日 青森県の工藤光治・嶺尚氏よりお励まし。感謝。
○中・高生が茨城県大洗へ鹿島へサイクリング。はむこ会鹿島支部のみなさんの至り尽くせりの計画とお世話になって。
二五日 関東海事広報協会のお招きで、中学一年生四名が大島キャンプに。
二七日 夏休み行事第四弾の幼児から二年生までの夢の会の秩父霧藻ヶ峰登山は台風十九号の襲来で中止。ザンネン。
二八日 はむこ会矢吹和美氏よりお菓子を沢山。感謝。
二九日 郡山市菅野クリニックの菅野圭樹先生と婦長さんおいでになり、養育相談を。
三十日 夏休みさよなら大パーティー。園庭で夏休みの報告と二学期への決意表明とバーベキューと。
九月一日 第二学期始まる。
二日 町内(株)田中電気工業より肉まんをたくさん、加須市の梅沢三保氏より石鹸を、宮代町の栗原忠氏よりいつものお励ましを。感謝。
六日 江森ヘヤーサロン散髪のご奉仕。いつもありがとう。

十六日 栗原忠氏よりお肉を沢山。ありがとうございます。
十七日 久喜市の渋谷紀至子氏より日用品を沢山。感謝。
二一日 数年前から学習指導などのヴォランティアで関わって下さった田中博正先生よりお菓子と問安のお手紙を。
○栖賀兄妹の父重得な病気で入院との連絡あり。
二二日 栖賀兄妹の父、逝去。
二三日 参列者数人というささやかな密葬に施設長、担当保母が参列して弔意を表す。兄の匠が喪主の重責を果たす。
共に暮らした月日よりも別れて暮らした年月のはるかに多くなってしまったこの家族に、再構成の手だてが完璧に閉ざされた日となった。
二五日 はむこ会品川支部より冷蔵庫を頂く。ありがとう。
寒い夏でしたが楽しい夏休みをたくさんの方々のお励ましをお受けして、このように終わりました。そして、一回り大きくなって二学期に入り元気に暮らしております。お寄せ下さったご支援に心から感謝して励みます。(くら)

反射光

メリークリス마스！。この年もたくさんさんの熱い思いや祈り、そして力強いお支えに励まされ、大きな事故もなく過ごすことが出来ました。心から感謝☆ジワジワと滲み出てくる不況は三十年近い施設の経験で初めてです☆上半期の一般寄付が前年比二十%減という激しいマイナスでした。好景気の時は一番遅く、不景気には最も早くその影響が表れるのはこの働きの宿命ではありますが☆山形県新庄市立明倫中学のいじめマツト死事件は、この時代を映すかのような事件でした。事件の内容もそうですが、捜査や審判の経過の中で、誰が何をしたのか政治家がらみの事件のようにはっきりせず終わり、大人と子どもの領域が又一つ失われていくことを明白にしました☆将棋の名手の父を殺害した少年の事件も時代の持つ苛立ちを裏返しているようで不気味です☆そんな中で子どもたちを真っ直ぐに育てていくことは至難です☆次の世紀を切り拓く力と希望と祝福に満ちた新年を！(哲)